Soba Choko Art

Soba Choko Art

第5回 そば猪口アート公募展

「日本そば」は古来より日本人の食卓を彩り、今なお、私たちの日常的な食材として欠かすことができない存在です。日本全国に名物とされる「そば」は多々ありますが、信州安曇野の「そば」は全国的にも名高く、安曇野観光の目的として多くの人に親しまれています。

「そば猪口」は、そばを食べる日常的な雑器でありながら、美しい細工が施され、味覚とともに視覚を楽しませる多彩なものとして好まれてきました。

このたびの公募展では、「そば」を食するに欠かせない什器「そば猪口」に着目し、広く一般から自作の作品を募集しました。241 名、287 点の応募作品の中から、厳選した 134 点の個性あふれる「そば猪口アート」をお楽しみください。

総評

公募展として第５回目となる今年、日本の31都府県をはじめ海外からも昨年に匹敵する287点の応募が有った。年齢も10代から80代迄と幅広く力作が寄せられたことは、多くの方に認知をされてきたことであり、嬉しい限りである。

審査員一同作品の前に何度も佇み、真剣に作品と対峙し、その良さを見つけることに時間を費やした。作品が発するエネルギーは強く、審査員一人一人に、強いメッセージを投げかけてくる。

入選と選外の差は、僅差であり、他の展覧会では評価される作品の多くが選外になり、今年も飾れない作品の方が多いことは実に申し訳ないと思う。

昨年より多くの作品134点を入選としたのは、出品作のレベルが年々上がり、どの作品も魅力が有ったからである。

受賞審査にはより多くの時間を費やした。最後迄残ってくる作品の醸し出す造形性、表現力、感性、使いやすさなどは秀逸であり、絞り込むのに何回もの投票を繰り返した。最後には皆でその良さを語り合い、受賞作品を決定したのであるが、今年は特に優秀な作品が多く、5周年を記念した賞を3点選出することとした。

この展覧会は今年も、愛知県瀬戸市、山形県白鷹町と巡回をする。髙橋節郎記念美術館だけで無く、各地で多くの方に見て頂き、そば猪口アートという手のひらにのる器が世界各国で何にでも使える美であることを発信していきたい。（三田村有純）

prism、blink

阿波 夏紀 1988 年／岡山県

〈磁／鋳込み・蛍手〉

晴天の水面に写る光と澄んだ夜空の瞬きを表現した。

「晴天の水面に映る光」「澄んだ夜の瞬き」 この一見、いや一聞、まったく対照的な光景、あるいは心象を一つに封じ込めたのがこの作品である。鋳込みで限りなく薄く、そば猪口ぎりぎりの用を満たすように作られている。素地を透かし彫りし透明な釉薬で填める、いわゆる蛍手技法によって、さまざまな大きさの直角三角形の集合を作る。その透かしの粗密によって光と影を表し、陽の中の光の反射、漆黒の空間の瞬きの二つをうまく表している。形のシンプルな強さ、蛍手の極めて現代的な解釈、これが現代人の感性にぴったりと寄り添う。（評:金子賢治）

プロフィール

1988 年 岡山県生まれ

2011 年 岡山県立大学デザイン学部 卒業

2013 年 岡山県立大学大学院デザイン学研究科セラミックデザイン学専攻 修了

現在、岡山市にて制作

【主な受賞歴】

2011 年 第 51 回 日本クラフト展 入選

2012 年 第 46 回 女流陶芸展 入選

2013 年 第 6 回 岡山県新進美術家育成「I 氏賞」 選考

2014 年 牛窓亜細亜藝術交流祭 2014「セラミックデザイン原画とデッサン展」作品展示

2014 年 第 10 回 国際陶磁器展美濃 入選

colour　古川 千夏　1993 年／広島県

〈七宝・純銀／プリカジュール・鍛金〉

純銀板に穴を開け、鍛金をしていくうちにできた、自然な模様に七宝を施しました。涼しさが感じられるように制作しました。

まるでプラネタリュームの空間に居るような世界観をかもし出している。純銀の板を鍛造し、金属に開けられた無数の小窓に、プリカジュール技法を用いて七宝釉を施し、愛らしい形を味方に安定した姿を創っている。内側から外の世界へ彩の星をちりばめて眩しい。瞠目すべき点は、見る側の心の在り様によっては、さまざまに様相を変幻させる底知れぬ思いが迫ってくる。（評：木下五郎）

プロフィール

1993 年　広島県生まれ

2012 年　広島市立基町高等学校 創造表現コース　卒業

2016 年　広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科 金属造形専攻 卒業

現　在　広島市立大学大学院 芸術学研究科 造形芸術専攻 造形計画研究 金属造形研究室　在学

【主な受賞歴】

2010 年　工芸甲子園 2010 ～第2回全国高校生クリエイティブクラフト展～
京都伝統工芸大学校奨励賞　（京都伝統工芸大学校／京都）

2011 年　工芸甲子園 2011 ～第3回全国高校生クリエイティブクラフト展～
京都伝統工芸大学校奨励賞　（京都伝統工芸大学校／京都）

2016 年　金属工芸公募展「いまからまめさら 2016」
山中源兵衛賞
いまからまめさらオーディエンス賞　（京都／清課堂）

【グループ展】

2014 年　第 29 回 桐美会展　（広島／ギャラリー・ブラック）

2014 年　金工 六つ　（広島／ Teoriya LD）

2015 年　八分一展　（広島／ Teoriya LD)

2015 年　いまからまめさら 2015　（京都／清課堂）

2015 年　第 30 回 桐美会展　（広島／ギャラリー・ブラック）

2016 年　urushi と metal と soil　（銀座／ JAA gallery）

2016 年　つぼみ　（広島／ギャラリー F）

2016 年　en market　（広島／猿猴橋）

2016 年　いまからまめさら 2016　（京都／清課堂）

万華鏡　菅谷 美子　1946 年／東京都

〈ガラス／切子〉

新そばの映える色を選びました。つゆを飲んだら底に万華鏡が。

夢うつつ　田中 若葉　1990 年／石川県

〈漆・麻布・和紙・卵殻／乾漆〉

夢か現か白い花が咲いていた。そんな何気ない景色の記憶を表した。

ま　り　丸井 菊二　1949 年／石川県

〈木／輪島塗（布目銀彩）〉

小手鞠のかわいい花をイメージして作成しました。

〔優秀賞〕「万華鏡」菅谷 美子

薄い紫色を外被せさせたロックグラス型の器に円模様を連鎖させた１点。太い縦のカットを施し、極細のストライプを残した１点。共に底には細かな切子伝統文様が刻まれている。洗練された、上品なそば猪口に仕上がっている。（評：藤田潤）

〔優秀賞〕「まり」丸井 菊二

ろくろ造形の上側を薄く削り、独特の造形とする。内側は朱溜塗を磨き上げ、奥深い艶で仕上げる。外側には粗い布を貼り、その上に荒い銀粉を蒔く。黒と朱を塗り込んで、磨き込むことによって表現された世界は花の命を表出する。存在感のある優作である。（評：三田村有純）

〔特別賞〕「夢うつつ」田中 若葉

乾漆で作られた形は四角から円に移る柔らかなカーブを描く。外側に貼られた和紙の重なりが自然の野を表出する。卵殻の白い色が点在する風景はそばの花がぽっかりと浮かぶ姿である。持ち上げた時、手になじむバランスが心地良い秀作である。（評：三田村有純）

蛍文猪口　根本 達志　1964 年／茨城県　〈陶／泥彩・印花〉

安曇野の湧水に囲まれたわさび畑。そこに舞う蛍を表現しました。

炻器猪口（せっきちょこ）　竹内 真吾　1955 年／愛知県　〈陶／手捻り〉

手捻りでしかできない形を制作しました。

銀製そば猪口　和咲味　岡澤 治季　1982 年／長野県　〈純銀／鍛金〉

安曇野の清流とわさび

〔特別賞〕「蛍文猪口」根本 達志

いわゆる正統派のコップ型で、口径、高、やや斜めに成形されたアウトラインの全体の比率がよく吟味されて作られ、堂々たる存在感を持っている。随所に蛍文が打ち込まれ、縦に線条を削り出した後、部分的にほぼ一周するように印花技法で四角、三角文を表し、全体に泥彩を施す。一見過剰だが色感が抑えられ、文様のトップを黒く処置したところにしゃれた感性がみられ、心地よい。（評：金子賢治）

〔第5回記念賞〕「銀製そば猪口 和咲味」岡澤 治季

器である前に楽しさを感じさせる造形が制作意図を明確にしている。あしらったワサビの装飾から、清々しいせせらぎの水音が聴こえる情景が映る。確かな鍛金技法で、純銀の美しさと、繊細な表現を成功させている。制作を通して自らのドキュメンタリーを豊かに喚起している姿が伺える。（評：木下五郎）

〔第5回記念賞〕「炻器猪口（せっきちょこ）」竹内 真吾

作者近年の得意とする縄が捻じられた様な立体文の集積を猪口に生かしたものである。猪口としては異色のものだが、手に持った感じもうまくフィットし、実用に支障はない。なおかつ器型造形としての迫力をも兼ね備えている。実力派の作家、面目躍如の作品である。（評：金子賢治）

薔薇貫入釉そば猪口「薔薇の泉」

本間 友幸　1975 年／長野県　〈陶／貫入〉

貫入を利用し、釉薬でバラの花を咲かせました。

天の川

小口 稔　1952 年／長野県　〈磁／ろくろ〉

富士登山の折に見た、天の川のすばらしさを作品にしてみました。

四方隅切り・八角清流

小口 富雄　1948 年／長野県　〈木:スプルース･ホワイト／圧着･天然樹脂仕上〉

四方隅切りは秋、八角清流は夏をシンプルに作成しました。

〔第5回記念賞〕「薔薇貫入釉そば猪口『薔薇の泉』」本間 友幸

まさに「薔薇の泉」と名付けられる通り、見込みを覗くと青とピンクの薔薇が目眩く世界を現出している。これは青磁釉のいわゆる氷裂貫入と言われる独特の性質を用いたもので、何重にも貫入が重なる点に特徴がある。別名、薔薇貫入とも言われる。真上から見るとおにぎり型をした魅力的な形、適度な高さ、そして裾の窄まり方など、形も大変すばらしい。（評：金子賢治）

〔審査員賞〕「四方隅切り　八角清流」小口 富雄

安曇野の季節感（夏・秋）を素材の色で表現し、そば猪口の形を四方隅切りと八角清流の形で形成している。それぞれの面を圧着天然樹脂仕上げで組み立て、大変精巧に作り上げている。木目や木肌など素材の美しさが際立った作品である。（評：宮下克彦）

〔審査員賞〕「天の川」小口 稔

手の平に素直におさまる器とは、このような形態のことを指すのであろう。青磁の美しさを引き出す確かな技術と表現力が単純なフォルムを完成させている。穹（そら）に広がる銀河の光塊を金彩で華やかな宇宙を創出している。個人的な忘想とか、道楽ではない表現領域を堅持する作者の意図が明快である。（評：木下五郎）

melt　上島 かな子　1980 年／東京都　〈磁・陶／ろくろ〉

溶融するうつわをテーマとして制作しました。

とけるような　塚本 沙耶　1985 年／愛知県　〈ガラス／吹きガラス・研磨〉

彫刻的な器を作りました。削った質感で色を作り、触ったとき、持ったときのしっとり手になじんだりボコボコしている感触を楽しむ器。

蒔絵八角そば猪口「忍草」　水尻 幸太　1980 年／石川県　〈ひのき　漆塗／蒔絵平文・本堅地〉

古今集から陸奥のしのぶ…恋しい人を思いつつそばを食すのも一興！

〔審査員賞〕「melt」上島 かな子

胴が緩やかにぷくっと膨らんだカーブが心地よい、白と黒の猪口である。金彩がまさに溶け出す（melt）ように控えめに口縁に施されている。これがまさに控えめな抑制された艶っぽさを醸し出す。確固たるアウトライン、地付きの面取り風の削り出しなど、なかなかに丁寧な仕事である。それが器型造形ともいうべき存在感を作り出す。（評：金子賢治）

〔審査員賞〕「とけるような」塚本 沙耶

淡い茶色を外被せした楕円形の器を大胆に削り、手になじむ感触が心地よい。そこそこの重さがあり、口元に施されたカットも全体に調和していて、現代ガラスの造形であると同時に使い心地が楽しめる。（評：藤田潤）

〔審査員賞〕「蒔絵八角そば猪口『忍草』」水尻 幸太

指物で組み上げた八角の形、内側の白漆とエッジに丹念に貼られた銀平文のバランスが美しい。外側には金銀の丸粉で市松模様に忍草が全面に描かれている。形に対しての図案の入れ方、蒔絵の筆の抑揚の技量は素晴らしく、見る者を引き込む優作である。（評：三田村有純）

愉快ななかま

我が家の愛猫“クロちゃん”は2年前に18.5才でなくなりました。クロちゃんとの楽しい日々を思い出しながら作品を作りました。

足立 佳代

1965年／静岡県

9.5×9.5×6.5 cm

〈陶／ろくろ・掻き落とし〉

姉妹手毬

見て、手に取って、食べて、美味しい器を目指しました。

石井 香織

1975年／神奈川県

10.0×10.0×7.5 cm

〈磁／ろくろ・イッチン〉

風紋 I

砂山に吹く風を想いながら

新井 倫彦

1947年／茨城県

9.5×9.5×7.0 cm

〈陶〉

青磁そば猪口

青磁釉を凹凸の面に施しすがすがしさを濃淡で表現。

石井 宏志

1955年／兵庫県

8.2×8.2×7.8 cm

〈磁／ろくろ・面取り〉

粉引きそば猪口

赤土の上から白化粧を掛けて、それを引っ掻いて絵を描きました。

五十嵐 務

1985年／東京都

8.5×8.5×6.0 cm

〈陶／白化粧〉

還

流れゆく時の経過を表現しました。

石曽根 沙苗

1992年／長野県

径9.0×高さ7.0 cm

〈磁／ろくろ・しのぎ〉

紫煌天目そば猪口

おいしいおそばをじっくり味わってもらいたく作りました。

井筒 敏彦

1963 年／京都府

8.4×8.4×7.4 cm

〈陶／ろくろ・天目釉〉

ソバ缶

蓋つきのそばちょこです。

江島 あかり

1992 年／愛知県

（左）7.0×9.0×6.0 cm
（右）8.5×8.5×6.0 cm

〈磁／たたら〉

Compositon

土の素朴な 2 色だけで線と面を構成しデザインしました。

ウォルシュ 香織

1972 年／東京都

9.0×9.0×6.5 cm

〈陶／泥彩〉

結　晶

冬の静寂の中にきらめく雪の結晶をイメージして作成しました。

種田 真紀

1978 年／京都府

8.6×8.6×6.8 cm

〈磁／上絵技法（赤絵細描）〉

青白磁波紋そば猪口

犀川の清らかな流れを表現しました。

江口 功

1980 年／愛知県

7.3×7.3×8.2 cm

〈磁／蛍手・彫紋〉

悠

手におさまるコロンとした丸い形。ザラッとした質感で片手で持ってもすべらない。

大塚 くるみ

1954 年／愛知県

9.0×9.0×8.5 cm

〈陶／手捻り〉

わさび

ツンとくる「わさび」を表現しました。

落合 史朗

1957 年／東京都

8.3×8.3×6.3 cm

〈陶／たたら〉

浮遊〜宇宙

浮びさまよう姿をイメージ

木口 泰広

1985 年／長野県

7.5×7.5×6.0 cm

〈陶／ろくろ〉

清　々

安曇野のすがすがしい空気と山並みや木々、新そばの味を思い浮かべてつくりました。

小野 千鶴

神奈川県

8.0×8.0×8.0 cm

〈陶／練り込み〉

備前緋襷そば猪口

そばの花の可憐な美しさを表現しようと作陶しました。

菊政 伸子

1951 年／東京都

8.5×8.5×7.0 cm

〈陶／酸化焼き締め〉

ひかりの予感

安曇野の朝の澄んだ空気の中で、土が目覚めていく様子をイメージ

片桐 実里

1988 年／神奈川県

7.5×7.5×6.5 cm

〈陶／鋳込み〉

銀彩泥そば猪口

野山を吹き抜ける風をイメージして作りました。

小林 謙介

1972 年／神奈川県

8.0×8.0×7.0 cm

〈陶／銀彩〉

森　林

安曇野の自然をイメージしました。

坂口 禮子

1941 年／長野県

9.5×9.5×5.8 cm

〈磁／ろくろ・象嵌〉

火たすき猪口「ゆらゆら」

氷を入れて純米酒を注ぐ…。カラッと氷が音をたてると、器がゆらっと動きだす。

篠田 弘明

1958 年／長野県

（左）径8.0×高さ6.8 cm
（右）径8.5×高さ7.4 cm

〈陶／緋襷〉

春霞・萌黄

静かな春の様子をイメージして作成しました。

佐藤 愛子

1980 年／愛知県

8.0×8.0×7.0 cm

〈陶／練り込み〉

ふ　う

やわらかなイメージで作りました。

杉原 晴香

1994 年／大阪府

9.7×9.7×5.8 cm

〈磁／鋳込み・掻き落とし〉

艶消し白磁そば猪口

雪の白、雪解けの大地が顔を出すそばの花の白、鳥が飛び立つ

篠田 明子

1962 年／長野県

9.0×9.0×7.0 cm

〈磁／ろくろ・象嵌釉裏紅〉

ゆらり

水の流れる様子。山や大地の土や木、自然の中にある動きをイメージして作成しました。

鈴木 彩

1974 年／東京都

9.7×9.7×7.5 cm

〈磁／ろくろ・下絵付け〉

暗　闇

田舎の夜は暗い
その中で月が光をところどころに
映す姿

関 薫

1959 年／長野県

7.0×7.0×7.5 cm
〈陶／ろくろ〉

颯

夏、白一面の蕎麦畑に爽やかな風が吹く様子を表現。練り込んだ色は青空と朝焼けをイメージしました。

髙杉 裕子

1964 年／神奈川県

8.0×8.0×6.1 cm
〈磁／練り込み・ろくろ〉

呉須呉服

呉服をイメージして作成しました。
和装で和食を。

田中 悦子

1979 年／静岡県

8.5×8.5×7.5 cm
〈陶／練り込み〉

こもれび

夏の安曇野　緑の林できらめく太陽の光の中　緑のざわめき…。

田原 形子

1960 年／東京都

8.0×8.0×6.5 cm
〈陶／ろくろ〉

光　芒

タイトル通り「光芒」を表現しました。

樽田 裕史

1987 年／愛知県

8.0×8.0×7.2 cm
〈磁／ろくろ・蛍手〉

花　毬（はなまり）

奥一面に咲く花々が毬のように弾むイメージで作成しました。

永久保 季恵

1983 年／東京都

8.0×8.0×6.5 cm
〈陶／マスキング〉

蕾

器の底及び高台を開花直前の蕾として表現しました。蕎麦つゆを猪口に入れる前に伏せられた器の姿を見て食する楽しみが増すように考えました。

中村 俊臣

1955 年／愛知県

9.3×9.3×5.3 cm

〈陶／ろくろ〉

線　器

イッチンの線で時間の流れや動きを表現しました。

西 崇

1988 年／和歌山県

9.5×9.5×6.0 cm

〈磁／ろくろ・イッチン〉

透光磁練上そば猪口「紫陽花」

紫陽花をイメージして色彩と質感で涼感を表現しました。

仁藤 香奈

1988 年／静岡県

8.5×8.5×6.2 cm

〈磁／練り込み〉

鏽鱗刻猪口

安曇野の山並みの力強い美しさを表現しました。

根本 峻吾

1986 年／茨城県

（左）径9.5×高さ8.2 cm
（右）径9.0×高さ7.5 cm

〈陶／ろくろ・削り〉

サーカス パンダとクマ

橋本 大輔

1969 年／大阪府

径8.0×高さ6.5 cm

〈陶／ろくろ・上絵〉

さざえ形自然釉猪口

山深い信州から海に思いをはせて

塙 幸次郎

1950 年／長野県

10.0×12.5×8.0 cm

〈陶／手捻り〉

そば猪口／コノハナサクヤ

和紙に描いた様に…。日本神話の木花咲耶姫ものがたりを絵巻にしました。

ひが 直美

1968 年／愛知県

8.0×8.5×7.0 cm

〈陶／たたら〉

青時雨

夏の暑さの中、夕立や日陰の風のように涼を感じる器を作りたいと思い制作しました。

藤内 紗恵子

1983 年／岐阜県

7.5×7.5×6.7 cm

〈磁／ろくろ〉

斜　光

雲の切れ目から光が降り注いだ情景を作品にしました。

樋口 健太

1980 年／長野県

10.3×10.3×7.3 cm

〈陶／スリップウエア〉

赤富士

赤富士をイメージして制作しました。手に取った時に心地良いよう質感、手ざわりにもこだわり制作しました。

藤岡 光一

1976 年／兵庫県

7.5×7.5×8.0 cm

〈磁／ろくろ〉

木蔭（こかげ）

夏の新緑の木蔭で食べるそばをイメージして作成しました。

平賀 愛子

1973 年／神奈川県

8.5×8.5×6.3 cm

〈磁／鋳込み〉

蓮華想

水辺に咲く蓮の花を表現しました。花とつぼみ、葉が広がる様子をイメージして制作しました。

本田 春野

1989 年／滋賀県

9.0×9.0×7.0 cm

〈磁／鋳込み〉

せせらぎ

透きとおる小川の流れをイメージして制作しました。

前沢 陽彦

1980 年／富山県

8.3×8.3×6.5 cm

〈磁／ろくろ〉

菊紋猫猪口（夫婦）

猫の柄に菊紋を使っています。猫好きだけど猫っぽいものが好きではない方に。

水野 育子

1981 年／神奈川県

（左）7.7×7.3×5.8 cm
（右）7.5×7.0×5.6 cm

〈磁／ろくろ・絵付け〉

遥　か

遥か彼方の空に想いを込めて。

宮島 正志

1953 年／東京都

9.5×9.5×7.5 cm

〈陶／彩土〉

春の香

陶胎漆器の技法を再現し、春の香りをイメージしながら装飾に工夫をしました。

森 裕一朗

1980 年／三重県

（左）7.5×7.5×5.7 cm
（右）7.5×7.5×5.8 cm

〈陶・漆／ろくろ・沈彫・陶胎〉

そばちょこっと

おそばが大好きでお母さんといっしょに食べたいと思い作りました。

森本 虹音

2003 年／滋賀県

（左）10.0×10.0×7.5 cm
（右）8.0×8.0×5.5 cm

〈陶／ろくろ・下絵・酸化焼成〉

mizuki

薄紅色で可愛らしさと繊細さを表現しました。

森谷 かほ理

1987 年／東京都

8.0×8.0×6.5 cm

〈陶／ろくろ〉

花詰そば猪口

日頃の感謝の気持ちを花に込めました。

吉岡 遥

1995 年／京都府

(左) 7.9×7.9×6.7 cm
(右) 8.3×8.3×7.0 cm

〈磁／ろくろ・上絵・金彩〉

乾漆蒟醤そば猪口「安曇」

水辺に光があたり、きらきら輝いた安曇野の光景を表現しました。

石村 有弓

岡山県

7.6×7.6×6.2 cm

〈漆・麻布・銀／乾漆・蒟醤〉

炭化そば猪口

1280° C で本焼成後、化粧土をかけ炭化焼成。土器のような風合いを出しました。

吉田 庄吾

1986 年／愛知県

10.0×10.0×7.7 cm

〈陶／玉づくり〉

日映（ひうつ）り

日の光に照らされた芙蓉をモチーフに沈金で表現しました。

井戸 悠生

1990 年／石川県

8.0×8.0×7.0 cm

〈漆／沈金〉

朱塗蕎麦猪口「赤備え」

戦国武将、真田幸村の朱塗の兜をイメージして制作しました。

浅賀 貴宏

1983 年／福井県

8.8×8.8×6.3 cm

〈漆・樺／塗立〉

風に吹かれて

田園でシャボン玉を飛ばすイメージで造りました。

伊藤 敦欣

1947 年／長野県

7.5×7.5×6.0 cm

〈漆・麻紐／縄紋・金銀彩色絵〉

永　遠

樹齢何百年、自然木の梓材（信州産）でしか表わせない緻密さであり、重さであります。

大場 芳郎

1949 年／長野県

6.0×7.6×6.0 cm

〈漆・梓・ヨグソミネバリ／摺り漆〉

樹洞水明

翠美し安曇野山葵は溶かず手元美しき森が水が安曇野蕎麦の秘味

斎藤 奈津美

1985 年／岩手県

8.0×11.0×7.0 cm

〈漆・栃／摺り漆〉

茜煌煌（あかねきらきら）

茜に染まる雲、山の端をイメージしました。

竹森 公男

1949 年／長野県

8.5×8.5×7.0 cm

〈漆／木芯・蒔絵〉

水　音

安曇野の山葵田に流れる清らかな水の流れと水音を表現してみました。

谷口 元美

1960 年／京都府

8.0×8.0×7.0 cm

〈漆・麻布・鮑・夜光貝・オパール・箔／乾漆・螺鈿・呂色塗〉

盎　然

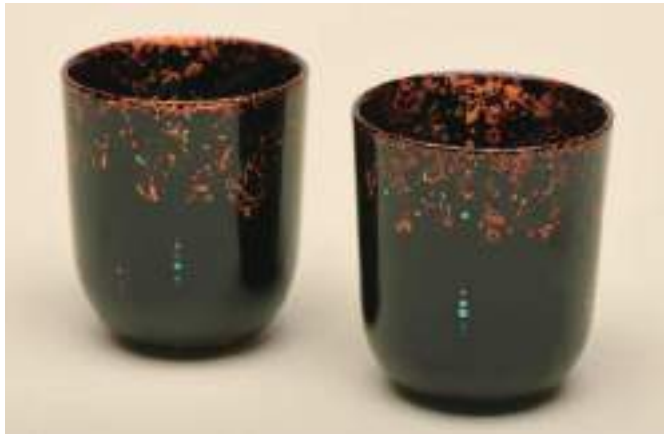
春風が暖かく吹き、万物がよみがえる

陳 明宗

1980 年／台湾

9.0×9.0×10.0 cm

〈漆・卵殻・楓木・金箔・綿布／変り塗り・梨地・石目地〉



瞳

ぎらぎら輝く　あなたの瞳

蔡 雨錚

1992 年／台湾

7.0×7.0×8.0 cm

〈漆・柚木・夜光貝・金箔／螺鈿・変り塗り〉

彩（いろどり）

秋風の吹く頃の昼夜の様と、微かな空気の流れを表す。

中山 強

1960 年／石川県

9.0×9.0×8.0 cm

〈漆･欅･錫･金･プラチナ／漆塗･沈金〉

水清ければ月宿る

月夜の綺麗な晩の池を連想し制作しました。

宮原 椎奈

1996 年／京都府

7.4×6.9×7.7 cm

〈漆・麻布／乾漆〉

蒔絵そば猪口「七宝小花」

日本の伝統紋様を全面に描くことでかわいらしさを表現してみました。

水尻 里見

1951 年／石川県

9.0×9.0×7.7 cm

〈漆（白塗）・欅／蒔絵・下地本堅地〉

安曇野山景　朝・夕

安曇野からみた常念岳の山なみを美しいと感じ作成しました。

目加田 怜美

1988 年／栃木県

9.0×9.0×8.5 cm

〈漆・麻布・錫・銀／乾漆〉

沈金そば猪口「宝相華」

正倉院宝物に見られる宝相華を沈金技法で制作してみました。

水尻 清甫

1954 年／石川県

8.0×8.0×7.7 cm

〈漆・檜／沈金・塗り本堅地〉

ソヴァスキー

ソバの後にウィスキーをやる。

森 安史

1972 年／香川県

8.0×8.0×7.5 cm

〈漆・栃・麻布・錫／乾漆・摺り上げ〉

梅の香り

月１回そば打ちをしています。そばが主役。そばの色のイメージで。

横瀬 孝子

1944 年／神奈川県

径9.0×高さ5.5 cm

〈漆・桂〉

そばの実ちょこ

蕎麦の実をモチーフに制作しました。

横山 美穂

1984 年／石川県

8.0×8.0×5.2 cm

〈漆・麻布・和紙／乾漆〉

うらら

春のキラキラ輝く川と、そよそよと吹く心地よい風をイメージして制作しました。

吉田 まゆ

1988 年／石川県

9.0×9.0×6.0 cm

〈漆・麻布・錫粉・顔料／乾漆・変り塗り〉

滿溢、滿憶

溢れてしまうほどのたくさんの思い出

李 國銘

1965 年／台湾

8.0×8.0×7.6 cm

〈漆・木・金箔・銀箔／墨流技法・拭き漆〉

梅の花

梅の花をイメージして作成しました。

李 明諺

1990 年／台湾

（左）8.3×8.3×7.6 cm
（右）8.5×8.5×7.7 cm

〈漆・金箔・錫粉／乾漆・石目地・梨地〉

空幻彩

いくつも重ねたレイアーで作り上がった深みの空間感。光と影が繰り出す幻想。豪華絢爛な色彩。

廖 家慶

1975 年／台湾

9.0×9.0×7.6 cm

〈漆･木･京都オパール･青貝･金箔･銀粉／変り塗り〉

大型千筋そば猪口

名木の千筋の大形・うどん、そばの猪口で木目もよく、たれが黒ずんで美しくなる

和田 省司

1935 年／神奈川県

径9.5×高さ9.0 cm

〈漆〉

御蔵島桑木彫そば猪口

そば畑の葉のかさなりをモチーフに造形。
内側に彫刻を施しました。

政所 新二

1964 年／長野県

8.3×8.5×8.0 cm

〈島桑／木彫削り出し〉

おやさい象嵌猪口

野菜の事を考えていたら、木に埋め込んでました。

太田 正明

1987 年／神奈川県

6.5×6.5×6.7 cm

〈漆・木曽檜・レンコン・レモン／板へぎ・象嵌〉

宇宙の器

蕎麦を作る動作を縄文模様で表現しました。

宮保 克行

1980 年／福井県

9.5×9.5×7.0 cm

〈漆・栃／木彫〉

ちょこん

女性の手でも持ちやすいようなイメージで作りました。

橋本 珠美

1995 年／茨城県

7.0×7.0×7.0 cm

〈槐・欅／木工旋盤〉

軽・揺

わざと普段円柱形のそば猪口と違って丸い形にしました。揺らしても倒れない猪口のイメージを軽くしました。夏場でおそばを気軽く食べる気分のようです。硬さのある欅木を使って、繊維の中に金箔を入れ、蜜ロウと台湾桧のオイルを拭く作業を何回も繰り返し、味のある贅沢感を追及しました。

羅 琪

1988 年／東京都

上横8.0×下横9.4×高さ6.4 cm

〈欅・金箔・蜜ロウ・台湾桧のオイル／旋盤・填金〉

面々々

阿修羅をモチーフに制作しました。

阿部 貴央

1985 年／神奈川県

8.0×8.0×9.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

映る薫り

そば、薬味、つゆが器の中で生み出す安曇野の薫りを表現しました。

飯田 桜子

1991 年／東京都

6.3×6.3×7.5 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

硝子製蕎麦猪口

手にした時の充実感を追求してつくりました。

池内 康祐

1984 年／長野県

径7.7×高さ8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・研磨〉

陽

光が降り注ぐ

石田 慎

1986 年／兵庫県

8.0×8.0×8.0 cm

〈クリスタルガラス／吹きガラス･切子･金彩〉

石流器

長く使っていただける落ち着いた風合いをめざし作製しました。

石橋 和法

1988 年／埼玉県

径8.5×高さ6 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

流（りゅう）　耀（よう）

安曇野に流れる川の朝露に煙る柔らかな光と夏の陽が川面にきらめく様をひとつのそば猪口に表現してみました。

伊藤 かおり

1964 年／東京都

8.0×8.0×7.8 cm

〈ガラス／切子・サンドブラスト〉

せせらぎ

安曇野の山葵が清流に包まれて育つ様子をイメージしました。

稲田 恵理子

1961 年／東京都

8.5×8.5×7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

宵月夜

宵の間のみに月のある夜
夜更け前の、空のうつろい

小川 真由子

1988 年／東京都

8.3×8.3×6.5 cm

〈ガラス／パート・ド・ヴェール〉

雲、漂うそば猪口

雲が流れているように感じてほしい。

井之下 翔

1991 年／長野県

8.7×8.7×7.2 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

朝　霧

朝もやの中、おほろげに映る草花や朝霧の情景と一面に花咲くそばの畑の美しさをイメージして創作してみました。

小野口 カナメ

1962 年／群馬県

（左）径7.7×高さ6.0 cm
（右）径7.7×高さ7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・カットガラス〉

木ととり“家路”

夕方飛んでいる鳥たちを見て、なんだかホッとするのは彼らが家に帰るところだからなのかもしれない。

内田 絹子

1978 年／富山県

8.0×8.0×6.5 cm

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

夏のそば猪口

山々の緑や川の青などの夏の安曇野の色をイメージしてつくりました。

加瀬 あすか

1987 年／千葉県

9.0×9.0×7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

milky way

夏の夜空を彩る無数の煌めき。その河の名は…

北形 槙子

1985 年／東京都

径10.0×高さ8.3 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

そば畑とわさび畑

わさび田に雨が降り、そば畑には虹がかかる。安曇野の夏の風景

小林 順子

1960 年／東京都

8.0×8.0×7.8 cm

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

朝　露

夏の朝に煌めく虹色の朝露と朝顔を螺鈿とガラスで表現しました。

金 泰成

1967 年／長野県

7.5×7.5×7.0 cm

〈ガラス／ラミネート・研磨・螺鈿〉

はざま

ガラスという素材でしか出せない空間の演出を意識して制作しました。

小宮 崇

1985 年／東京都

8.0×8.0×8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

泡ちょこ

透明なガラスに泡を入れて川の流れを表現した作品です。

熊谷 正行

1967 年／東京都

9.3×9.3×7.2 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

花紋猪口

花紋が華やかに舞う　香りを感じる猪口です。

佐藤 遥果

1984 年／神奈川県

径8.5×高さ7.2 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

かほり

さくら貝をイメージして、質感や色合い等研究し、制作しました。

柴田 莉沙

1991 年／福島県

7.5×7.5×6.7 cm

〈ガラス／ホットワーク〉

moonlight

雲間からのぞき見える月明かりをイメージして制作しました。

高木 基栄

1984 年／石川県

9.0×9.0×7.0 cm

〈ガラス・プラチナ彩／吹きガラス・グルーチップ・金彩・サンドブラスト〉

刻

木に刻まれる年輪をイメージして制作しました。

中尾 雅一

1977 年／福島県

8.0×8.0×7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

漣

こちらは細かい泡のケーンを折り返して作りました。安曇野の川を流れている所の漣をイメージして制作しました。

中村 謙介

1987 年／東京都

径8.2×高さ7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

墨（ぼく）

墨流しのように水の中を漂う色をイメージして作成しました。

中村 里菜

1992 年／長野県

7.5×7.5×7.5 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

夜空の吐息

安曇野の澄んだ空気と夜空を透明感のあるガラスでイメージして形にしました。

仁平 晴奈

1985 年／埼玉県

7.5×7.5×5.5 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

キセキ

風でそよぐそばの実の軌跡を模様で表現しました。

深川 瑞恵

1994 年／愛知県

7.0×7.0×7.1 cm

〈ガラス／ホットワーク〉

霖　雨

安曇野に降った恵みの雨と、その雨を降らせた龍王の鱗をイメージして。

福榮 徳子

福岡県

7.3×7.3×7.0 cm

〈ガラス／パート・ド・ヴェール〉

息　吹

ソバ、ワサビ、バイカモ、ミヤマリンドウの花一輪と清流に生きるアオハダトンボを配しました。

前出 佳与

1976 年／兵庫県

8.0×8.0×7.0 cm

〈ガラス／コアガラス〉

ソバ・チョコ・カップ・広島

ソバ好きで広島のスポーツチームを応援している。もちろん優勝だ！

増田 ひで子

1947 年／広島県

（左）縦 9.0×幅 10.0×奥 9.0 cm
（右）縦 10.0×奥 10.0×幅 10.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

竹取物語

竹から生まれた輝くかぐや姫をイメージして作成しました。

三留 舞

1986 年／神奈川県

7.5×7.5×8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

銀熔変そば猪口

独自の技法を使い金属的な発色を意識して制作しました。

水口 智貴

1981 年／岡山県

8.0×8.0×7.5 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

みずのそら

水面に写る空をモチーフに制作しました。

三好 愛音

1992 年／長野県

(左) 7.0×7.0×7.0 cm
(右) 7.5×7.5×7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス・研磨〉

白　炎

夏におそばをより冷しく食べられるよう、レースグラスを採用しました。そばつゆのきれいな色合いも楽しめます。

森川 オサム

1949 年／東京都

7.5×7.5×7.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

平織硝子

平織のように、細い色線を、縦と横に組み合わせ制作しました。

山﨑 友香

1991 年／神奈川県

7.0×7.0×8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

流れるままに

あふれ流れる水を表現しました。

山本 弥生

1964 年／東京都

13.0×18.0×5.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

波模様そば猪口

静かにリズムを刻んでいる波をイメージして制作しました。

湯浅 明子

1988 年／埼玉県

8.8×8.8×8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

温　光

街や山に降り注ぐやわらかな日の光をイメージして作成しました。

吉田 直隆

1991 年／福島県

径 7.5×高さ 8.0 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

DRAWING　NO. 2

ガラスに描くことによってガラスの質の違いを楽しんでいます。

吉積 彩乃

1991 年／富山県

9.0×9.0×7.0 cm

〈ガラス／宙吹き・ケーンドローイング・エナメル絵付け〉

いわい

祝いの席で使う器。私からお祝いの気持ちを込めて作りました。

吉野 正也

1968 年／埼玉県

8.0×8.0×7.5 cm

〈ガラス／吹きガラス〉

安曇野の雪溶け

安曇野の雪溶けをイメージしながら作成させていただきました。

飯島 幸子

1947 年／長野県

縦9.5×横6.0 cm

〈銅板／七宝焼〉

睡　蓮

おそばをいただくために器を持ち上げると睡蓮が花開きます。

藤森 和孝

1963 年／長野県

径12.0×高さ6.5 cm

〈銅・革／鍛金・七宝〉

夕　映

北アルプスの夕暮れ時の美しい風影をイメージして作りました。

西田 幸平

1999 年／長野県

8.0×11.0×11.0 cm

〈銅・金箔／鍛金・硫化着色〉

風に誘われて

お花見に行った帰りは高遠そばを。革の素材を生かして制作しました。

酒井 昭子

1945 年／長野県

9.0×8.7×7.5 cm

〈革／カービング〉

第5回 そば猪口アート公募展

2016年 10月4日(火)～11月6日(日)

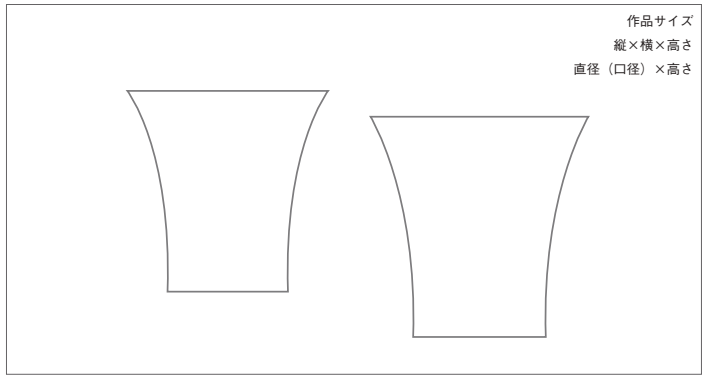
〔開館時間〕9：00～17：00
〔休 館 日〕10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)
会　場：安曇野髙橋節郎記念美術館
観覧料：無料（髙橋節郎作品の展示室は有料）
主　　催：そば猪口アート展実行委員会、安曇野髙橋節郎記念美術館
構成団体：安曇野市、東京藝術大学、安曇野髙橋節郎記念美術館友の会、現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク
協　　力：信州安曇野「新そばと食の感謝祭」実行委員会、瀬戸市新世紀工芸館、白鷹町文化交流センター「あゆーむ」
審 査 会：2016年 8月1日(月)・2日(火)
審 査 員：金子賢治、木下五郎、藤田潤、宮下克彦、三田村有純
募集期間：2016年 7月5日(火)～18日(月・祝)(消印有効)
応募点数：287点(応募者数241名)
巡 回 展：瀬戸市新世紀工芸館
愛知県瀬戸市南仲之切町81-2
12月3日(土)～2017年1月22日(日)
白鷹町文化交流センター「あゆーむ」
山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地
2017年3月

入選者（50音順）

浅賀　貴宏	足立　佳代	阿部　貴央	新井　倫彦
阿波　夏紀	飯島　幸子	飯田　桜子	五十嵐　務
池内　康祐	石井　香織	石井　宏志	石曽根 沙苗
石田　慎	石橋　和法	石村　有弓	井筒　敏彦
井戸　悠生	伊藤　敦欣	伊藤 かおり	稲田 恵理子
井之下　翔	ウォルシュ 香織	内田　絹子	江口　功
江島 あかり	種田　真紀	太田　正明	大塚 くるみ
大場　芳郎	岡澤　治季	小川 真由子	小口　富雄
小口　稔	落合　史朗	小野　千鶴	小野口 カナメ
加瀬 あすか	片桐　実里	上島 かな子	木口　泰広
菊政　伸子	北形　槙子	金　泰成	熊谷　正行
小林　謙介	小林　順子	小宮　崇	斎藤 奈津美
酒井　昭子	坂口　禮子	佐藤　愛子	佐藤　遥果
篠田　明子	篠田　弘明	柴田　莉沙	菅谷　美子
杉原　晴香	鈴木　彩	関　薫	高木　基栄
髙杉　裕子	竹内　真吾	竹森　公男	田中　悦子
田中　若葉	谷口　元美	田原　形子	樽田　裕史
陳　明宗	蔡　雨錚	塚本　沙耶	中尾　雅一
永久保 季恵	中村　謙介	中村　俊臣	中村　里菜
中山　強	西　崇	西田　幸平	仁藤　香奈
仁平　晴奈	根本　峻吾	根本　達志	橋本　大輔
橋本　珠美	塙　幸次郎	ひが　直美	樋口　健太
平賀　愛子	深川　瑞恵	福榮　徳子	藤内 紗恵子
藤岡　光一	藤森　和孝	古川　千夏	本田　春野
本間　友幸	前沢　陽彦	前出　佳与	増田 ひで子
丸井　菊二	政所　新二	水尻　幸太	水尻　里見
水尻　清甫	水野　育子	三留　舞	水口　智貴
宮島　正志	宮原　椎奈	宮保　克行	三好　愛音
目加田 怜美	森　安史	森　裕一朗	森川 オサム
森本　虹音	森谷 かほ理	山﨑　友香	山本　弥生
湯浅　明子	横瀬　孝子	横山　美穂	吉岡　遥
吉田　庄吾	吉田　直隆	吉田　まゆ	吉積　彩乃
吉野　正也	羅　琪	李　國銘	李　明諺
廖　家慶	和田　省司		

凡例

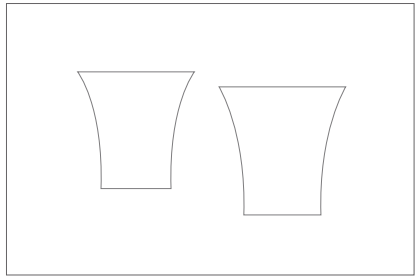
入賞（p.3～p.8）



作品タイトル　氏名　生まれ年／現住所
〈素材／技法〉

作者コメント

入選（p.9～p.28）



作品タイトル

作者コメント

氏名

生まれ年／現住所

作品サイズ
縦×横×高さ
直径（口径）×高さ
〈素材／技法〉

※作品のサイズの表記は、縦×横×高さの順に表記しています。それ以外の作品は直径(口径)×高さの順で表記しています。
※サイズの記述については、作家の表示指定に準じています。
※県名は、現住所を示しています。
※コメントは、入選者の方に寄せていただいたものです。

第5回 そば猪口アート公募展

安曇野高橋節郎記念美術館

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高408-1 電話 0263-81-3030 FAX 0263-82-0551
URL http://www.city.azumino.nagano.jp/site/setsuro-muse/

発行／2016年10月　制作／㈱電算印刷　撮影／山田　毅